



〈研究〉Ricardoニ於ケル貨幣概念ノ進歩

福田, 敬太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 31(1):93-122

(Issue Date)

1921-07

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053334>



研

究

Ricardo ニ於ケル貨幣概念ノ進歩

神戸高等商業學校講師

商學士 福田 敬太郎

目 次

一 開 題

二 貨幣學說史上 Ricardo ノ文獻

三 第十八世紀初期ノ英國貨幣狀態ト Ricardo ノ貨幣理論

四 貨幣概念ノ進歩

經濟學史ニハ二種ノ任務ガアル。經濟學ソノモノノ發端ト發展、之ヲ詳言スレバ、經濟學ガ何時、何處デ、如何ナル事情ノ下ニ發生シタカ、經濟理論ハ他ノ學の理論、例ヘバ哲學的・倫理學的・政治學的・社會學の理論ト如何ナル關係ニ立チ、如何ナル紛争ヲ起シツ、其ノ獨自ノ途ヲ發見スルコトニ努メタカヲ、經濟學の諸文獻ニ由ツテ研究スルコトハ其ノ一デアツテ、予ハ假リニ之ヲ經濟學

史ノ外延的任務ト名付ケル。更ニ經濟學的概念ヲ個々ニ、或ヒハ相互ニ、其レガ如何ニ變遷シ來ツタカラ研究スルコト、之ヲ從來ノ研究範圍カラ例示スレバ、カノ利子學說ノ發達史ト云フ如キモノ (John-Bawer, Kapitalmnd (Kapitalins L. Abteilung)) 卽チ所謂經濟學的特殊問題ノ學說史の研究ニ當ルノデアルガ、予ハ之ヲ經濟學史ノ内包的任務ト假稱シテ、經濟學史研究上忽ニスベカラザル方面トスル。

經濟學的概念ガ如何ニシテ構成セラル、カト云フ認識論的問題ヲ離レテ、資本・利子・貨幣・價格、企業等經濟學ノ中心思想ヲ成スコロノ諸概念ノ發展ヲ云爲スルコトハ、全體ノ論述ヲシテ獨斷的傾向ヲ帶ビシメル虞ガアル。シカモ予ガ「概念ノ發展」若クハ「概念ノ進歩」ナル用語ヲ選ンダコトハ以下ノ理由ニ基クノデアル。純然タル經濟學的概念ハ其ノ捕捉セントスル内容ニ於テ必ズシモ常ニ一定デハナク。經濟事情ノ變化ト共ニ變遷スルモノデアル。然ルニ經濟事情ノ變化ト經濟學的概念ノ捕捉力ノ變遷トノ間ニハ時ニ遲速ヲ生ズルコトヲ免レス。而シテ多クノ場合ニ經濟學的概念ガ經濟事情ヲ追フモノデアル。ソコデ概念ガ事情ニ到達シタル場合ニ「概念ノ進歩」ガアツタト考ヘル。予ハ斯カル意味ニ於テ「概念ノ進歩」ノ可能性ヲ信ズルノデアル。

此ノ經濟學的概念ノ進歩ヲ研究スルコトハ經濟學史ノ内包的任務デアツテ、從來ノ所謂經濟學的特殊問題ノ學說史的研究ニ於ケル本質ヲ成スモノデアル。經濟學的概念ハ悉ク此ノ種ノ吟味ヲ經テ初メテ其正シキ捕捉力ヲ闡明スルモノデアルガ、就中、上述ノ諸概念卽チ資本・利子・貨幣・價格・企業ノ如キハ特ニ之ヲ必要トスル。殊ニ貨幣論ニ於テハ相異ル學說互ニ鏑ヲ削リ、世人モ之ニ注目スルニ至レル有様デアアルガ、其ノ論爭ノ由ツテ起ル源ハ全ク貨幣概念ノ不明晰ニ存スルノデアル。

シカモ貨幣概念ガ一個ノ經濟學的概念トシテ進歩性ヲ有スルコトヲ忘レルナラバ、永遠ニ正シキ貨幣學說ハ得ラレナイデアラウ。

貨幣概念ガ如何ニ進歩セシカノ問題ハ、「マーカンチリズム」ノ時代カラ Adam Smith ヲ經テ David Ricardo ニ至ル間ノ貨幣論上ノ諸文献ヲ檢スルコトニ由ツテモ解明シ得ルガ、予ガ此處ニ行ハントスルトコロノ貨幣論上 Ricardo ノ文献ノ研究ノミニ由ツテモ幾分釋明シ得ル。蓋シ第十九世紀ニ於ケル貨幣論ハ、金銀流通ノ現象ニ由ツテ促進セラレタト云フヨリモ、寧ろ紙券流通ノ旺勢デアツタ爲メ大イニ發達シタト云フコトガ出來、比喻ニ巧ミナル Marx ニ倣ツテ、Threadneedle 街ニ於ケル紙券印刷ノ Ricardo ニ對スル關係ハ、亞米利加ノ金鑛發見ノ Hume ニ對スル關係ニ等シト云フコトガ出來ル。一七九七年二月二十六日、英蘭銀行ノ正貨支拂停止ガ宣言セラレテ以來、銀行券ノ増發ハ日日ニ多クナリ、從ツテ金價ノ騰貴ハ避ケ得ベカラザルモノトナツタ。Henry Thornton ニ由ツテ注意セラレタル「紙券信用」Paper credit (本紙第廿八卷第四號所載、福田博士校拙稿「ハンリー・ソーントン紙券信用論ノ研究」參照)ハ其ノ後貨幣論ヲ取扱フ者ガ決シテ見通シ得ザル一ノ重要ナル項目トナツタ。金紙ノ關係コン第十九世紀ノ初頭ニ於テ先ヅ解決シナケレバナイ大問題デアツタノデアル。

英國貨幣學說ノ發達ニ就テ思フ運ラス者ガ、第十八世紀ノ諸學說カラ第十九世紀ノモノヘノ轉期ニ於テ見落スベカラザル事實ハ實ニ此ノ紙幣學說ノ出現デアル。Petty, Locke, Law, Hume, Harris 等ノ諸星ニ照ラサレ愈々其ノ光ヲ輝カセ來ツタ英國貨幣學說ハ、第十八世紀ノ末頃カラ更ニ新シキ軌道ヲ有スルトコロノ Thornton ヲ先陣トセル Ricardo 反對派ノ一群星ノ出現ニ由ツテ異色ヲ帶ビ

ルニ至ツタ。然シ乍ラ此ノ金屬主義カラ解放セラレントスル試ミハ既ニ John Law ニモ、更ニ邇ツテ William Lowndes ニモ萌サレテ居タコトヲ思ヘバ、夙ニ一世紀ノ昔ニ發セラレタ宣戰ノ布告ガ今ニシテ漸ク實戰ノ期ニハイツタトモ云ヘル。Lowndes ノ時代ニ於テハ哀哉四面楚歌ノ聲デアリ、Law ノ場合ニハ稍々時人ヲ驚カスコトハ出來タモノ、尙ホ自ラ備フルトコロ薄カツタノト、大勢ノ趨クトコロ彼ニ非デアツタノト、内外ノ事情ニ餘儀ナクサレテ失敗シタ。然ルニ第十八世紀ノ末葉カラ第十九世紀ノ初頭ニカケテ今ヤ事情ハ變リ、紙ノ動ク時代ガ來タ。斯クテ問題ハ一轉シテ金屬自體ノ問題カラ金紙ノ關係ノ問題ニ移ツタノデアル。

其ノ問題ノ核心ハ、タトヒ金屬自體ニ就テ將タ金紙ノ關係ニ就テト外觀上ノ變遷ハアルトシテモ詮ズルトコロ價值單位・價值尺度ニ存スル。其ノ點ニ於テハ Lowndes ノ心ト Thornton ノ心ト一脈相通ズル何モノカ、存シナクテハナラヌト判ズルコトハ許サレルデアラウ。曰ク、價值尺度ヲ名目的ニ構成スベシト價值尺度ノ主觀的構成ニ對シテ其ノ客觀的構成ヲ主張シテ來タ論說ガ前ニ Locke ニ由ツテ後ニ Ricardo ニ由ツテ代表サレテ居ル。經驗論ノ立場ヲ固ク護ツテ居ル英國の大頭腦ガ相寄ツテ造リ上ゲタ客觀主義ハ實ニ堅牢デアル。Lowndes ニセヨ、Law ニセヨ、Thornton ニセヨ、彼等ガ知リテカ知ラズシテカ、兎モ角此ノ經驗論的客觀主義ノ牙城ヲ攻メ陷レント試ミタ其ノ志ハ誠ニ壯デアル。唯々彼等ニハ其ノ反對派ニ於ケル如キ共通ノ根據ガ認メラレテ居ラズ、彼等ハ謂ハハ別々ニ放タレタル流矢ニ過ギナカツタ。然ルニ其ノ敵ノ陣容ハ守備益々堅固デ、一筋ノ流矢ニモ數丈ノ疊ヲ築ク有様デアル。Thornton ノ「紙券信用論」ガ現ハレテ後幾何モナクシテ巨將 R. T.

Cardo が「金價論」ヲ以テ之ヲ遡ヘタ。其ノ對陣ハ之ヲ解剖スレバ諸種ノ問題ヲ惹キ起スデアラウ然シ總テヲ其ノ根底ニ流ル、方向ヲ異ニスルニツノ流レニ即シテ考ヘルコトニ由ツテノミ學史的意義ガ生ズル。

斯クシテ Ricardo ハ所謂金屬主義ノ立場カラ貨幣論ヲ樹テタノデアアルガ、予ガ此處ニ疑ハントスルトコロハ、彼ハ果シテ金屬主義的貨幣概念ヲ終始一貫シタデアラウカト云フコトデアアル。シカモ彼ハ貨幣論ヲ以テ初メテ名ヲ擧ゲタニモ拘ラズ、或ヒハ彼ノ經濟論說中貨幣論ヲ最モ賞讃スベキモノデアルトスルモノト、或ヒハ其レヲ最モ誤謬ニ充テルモノトスルモノト、褒貶相岐ル、ガ故ニ、果シテ彼ノ貨論ハ如何ナル價值ヲ有スルモノナルカヲ究メタイ。其ノ爲メニ次ニ彼ノ貨幣論上ノ文獻ヲ紹介スル。

II

貨幣學說史上 Ricardo ノ文獻トシテ紹介スベキモノガ五アル。

- I. Three Letters on the Price of gold. (ed. by Hollander. Baltimore 1903.)
- II. The High Price of Bullion. A Proof of the Depreciation of Bank Notes. (4th ed. 1811)
- III. Proposal for an Economical and Secure Currency, with Observations on the Profits of the Bank of England as they regard the Public and the Proprietors of Bank Stock. (2nd ed. 1816)
- IV On Currency and Banks. (in the Principles of Political Economy and Taxation. 3rd ed. 1821.

ch. 27.]

V. Plan for the Establishment of a National Bank* ([Posthumous,])

(以上五篇ノ第一ヲ除ク他ハ總テ Maculloch ノ編ミタル Ricardo 全集ニ收メラレテ居ル)

英國金融界ノ興味深キ状態ハ Ricardo ニ貨幣問題ニ對スル彼ノ見解ヲ發表スル機會ヲ與ヘタ。彼ノ貨幣論ハ、其ノ價值論・價格論・賃銀論・地代論等ト共ニ系統的ニ構成セラレタル彼ノ經濟理論ノ一部トシテ出來タト云フヨリモ、却ツテ偶然ノ動機カラ最初ニ單獨ニ出來上ツタモノデ、後ニ至ツテ彼ノ經濟理論ノ全體系ノ中ニ收メラレタノデアルト云ハネバナラス。Ricardo ガ貨幣論ヲ初メテ世ニ示シタノハ一八〇九年英蘭銀行券ノ價值下落ガ殊ニ著シク成ツタコトガ動機ト成ツテ居ル。即チ一七九七年ノ英蘭銀行正貨支拂停止以後徐々ニ銀行券ノ價值ハ下落シ、一八〇九年ニ入ツテカラハ同銀行券ノ歩引^{ディスカウント}ハ二歩五厘乃至三步ニ成リ、時ニ一割三步乃至一割四分ニ達シタコトサヘアル。此ノ事情ニ刺戟セラレテ、其ノ身金融界ノ中樞ニ在ル Ricardo ハ「金價論」The Price of Gold. ナル一文ヲ同年八月二十九日ノ Morning chronicle 紙上ニ發表シタ(此ノ寄書並ニ後二回ノ寄書ナ「Hollan-」
「der」カ輯メテ前掲Iノ文獻ヲ作マタ)其ノ要略ハ次ノ如クデアル。

「金ノ市價ト法價トノ開キノ大ナルコトハ今ヤ世人ノ齊シク注目スルトコロデアルケレドモ、未ダ何人モ充分ニ其ノ真相ヲ知ラナイ。今ニ於テ此ノ根本問題ヲ解決セナケレバ他日大ナル悔ヲ殘スコトデアラウ。金ノ法價ハ三磅十七志十片半デアルガ、市價ハ漸時騰貴シテ最近二三週間ハ實ニ四磅十四志ト云フ高値ニ成ツタ。此レハ殆ド二割ノ騰貴デアル。而シテ此ノ趨勢ハ決シテ最近起ツタノ

デハナク、明カニ一七九七年以後之ヲ見ルコトガ出來ル。

抑々銀行ガ銀行券ニ對シテ正貨ヲ支拂ツテ居ル限りハ金ノ市價ト法價トノ間ニ開キノ起ル筈ハナイ。何トナレバ假令市價ガ騰貴シテ硬貨ヲ潰鑄シ地金ヲ輸出スルコトガ利益ニ成ルトモ、商人ガ銀行券ヲ金ニ兌換スルコトヲ續ケル間ニ過剩ノ銀行券ハ全テ銀行ノ手ニ回收セラル、ニ至リ、其レ以上兌換スベキ過剩ノ銀行券ハ流通セズ、從ツテ金ノ市價ト法價トハ結局平衡ヲ保ツニ至ルデアラウカラ。元來、銀行券ノ流通額ニハ一定ノ限度ガアルノデ、銀行ガ如何ニ多額ノ銀行券ヲ流通サセヤウト思ツテモ駄目デアツテ、餘分ノ銀行券ハヤガテ銀行ニ戻ツテ來ルモノデアル。故ニ金ノ市價ト法價トノ間ニハ、金紙兌換ノ行ハル、限り、著シキ開キノ生ズル理由ノナイモノデアル。ソコデ現今ノ銀行券ト金價トノ大ナル價值差額ハ、銀行券ニ兌換性ナキ爲メ増發サレタル多額ノ銀行券ガ毫モ銀行ニ回收サル、コトナク悉ク流通サレテ居ルト云フ事實ニ歸シナケレバナラヌ。

「金紙ノ開キノ大ナルコトハ銀行券ノ過多ナル流通ニ基因スルト云フ他ノ論據ガ爲替相場ノ側ニ存スル。同様ノ本位制ヲ有スル諸國間ノ爲替相場ノ高低ハ所謂現金輸送點ヲ限度トシテ動クモノデアラルガ、正貨支拂停止以來ノ英國ノ爲替相場ノ下落ハ金ノ騰貴ト共ニ益々甚シクナリ通常ノ現金輸送點ヲ突破シテ居ル。其ノ理由ハ今ヤ商人ハ金ノ代リニ紙ヲ持ツテ居ルニ過ギズ、而カモ其ノ紙ヲ金ニ換エル爲ニハ一「オンス」ノ金ニ對シ四磅十三志ノ銀行券ガ必要デアルカラデアル。斯クシテ英國爲替相場ハ金ノ騰貴ト共ニ益々下落スルノデアアルガ、其ノ源ハ實ニ銀行券ノ流通過多ニ在ル。」

「此ノ際探ルベキ手段ハ唯一ツアル。其レハ銀行ヲシテ銀行券約二三百萬磅ヲ回收セシメルコトデ

アル。然ウナレバ別段銀行ニ對シテ正貨支拂ノ義務ヲ命ズルコトナク、金ノ市價ハ忽チ法價ト一致シ、物價モ下落シ、爲替相場モ常態ニ復スルデアラウ。誠ニ我ガ通貨ノ一切ノ惡弊ハ悉ク英蘭銀行ノ増發ニ基因スル。英蘭銀行ガ其ノ意ノマ、ニ通貨ノ價值ヲ下落セシメ物價ヲ騰貴セシメ以テ民衆殊ニ定額收入者ノ生活ヲ脅カスニ至ラシムル怖ルベキ權能ヲ賦ヘラレタルニ現今ノ病源ガ存スルコトハ明白デアラウ。

此ノ八月二十九日ノ寄書ニ對シテハ多クノ反對意見ガ現ハレタガ、中ニ A Friend of Bank Notes but no Bank Director ト署シタ一文ガ九月十四日同ジク Morning chronicle 紙上ニ現ハレタ。筆者ハ此ノ後ニ長ク Ricardo ト書信ヲ交ヘ學問ノ討究ニ力ヲ盡シタトコロノ Hutches Trower (1771-1833) デアル。Trower ハ Ricardo ニ反對シテ、金價騰貴ノ原因ヲ、佛蘭西ノ不換地券^{不換地券}ノ失敗ニ基因スル一般紙幣ノ不信用ト、戰爭ニ要シタル多額ノ費用トニ歸シタ。尙ホ Trower ハ通貨關係ニ於ケル利率爲替相場等ノ諸問題ニ就キテ Ricardo ニ對シテ自說ヲ主張シタ。此レニ對シテ Ricardo ハ第二ノ論文ヲ九月二十日ノ同誌上寄せタ。第二論文ハ本質的ニハ第一論文ト同様ノ見解ヲ繰返シタモノデアルガ、特ニ評者ノ爲メニ爲替問題並ニ銀行券回收方法ニ關シテ説明ヲ新シクシタノデアル。此ノ答ニ對シテ Trower モ復ビ第二ノ寄書ヲ行ヒ、論述ハ稍々理論的色彩ヲ濃クシ、銀ノミガ唯一ノ價值尺度デアツテ、銀行券ハ銀ノ代表者デアルト云フ如キ思想ヲ掲ゲタ。Ricardo ハ三度筆ヲ執ツテ十一月二十三日第三論文ヲ發表シ、駁論者ノ根本思想ヲ非難シタ。然シ固ヨリ此ノ寄書ニモ本質的ニ新シキモノハ見當ラナイ。新シキ進歩ヲ現ハシタノハ、彼ノ處女作トモ見ルベキ「地金騰貴

論 (The high price of Bullion) デアツテ、本書ハ一八〇九年ニ初メテ公刊セラレ、一八一一年ニ改訂第

前掲II

四版ヲ出シタ。斯クノ如ク「金價論」並ニ其ノ修正増補タル「地金騰貴論」ヲ以テ名聲ヲ博シ、後ニ理論經濟學ノ泰斗ト譔ハル、ニ至ツタ人ノ爲メニ其ノ初メニ脇役ヲメタトコロノ Huchess Trower アルロトヲ忘レテハナラヌ。
(Letters of David Ricardo to Huchess Trower and others 1811-1823.)
(ed by Burn and Hollander. Introduction VI-VII 参照。)

Ricardo ハ地金騰貴論ノ序文 (此ノ序文ハ Meunloeb ノ編纂シタ全集ニハ載セラハズ、Hollander) ニ於テ、此

ノ著ハ彼ノ見解ヲ發表スルニ一層適切ナル方法ヲ用フルコトニ由リ曩ノ新聞論說ヨリモ徹底的ニシテ且ツ斬新ナル思想ヲ啓示セルコトヲ自信シテ居ル。本論ノ要領ハ次ノ如クデアアル。

「銀行ガ創設セラル、以前ハ世界ニ流通スルトコロノ金銀ガ各國ノ商業狀態及ビ國富程度ニ應ジテ諸國間ニ配分セラレ居タコトハ、經濟學者ノ唱フルトコロデ、斯クノ如ク配分セラレテ居ル間ハ金銀ハ何處ニ於テモ同一ノ價值ヲ有シ、又各國ハ實際ニ使用スル分量ニ對シテ同等ノ必要ヲ感じテ居ルノデアアルカラ金銀ノ輸出入ヲ促スベキモノハ存在シナイ。」

「凡ソ金銀ハ他ノ商品ノ如ク固有ノ價值ヲ持ツテ居ル。其ノ稀少性、其ノ生産ニ要シタル勞働量、並ニ鑛山ニ用フル資本ノ價值ニ由ツテ、金銀ノ固有ノ價值ガ定マル。貨幣ヲトシテ存ストコロノ世界中ノ金銀量ガ、タトヒ非常ニ少クトモ又大變ニ多クトモ、金銀ガ各國ニ配分セラル、比例ハ毫モ影響ヲ受ケナイデアラウ。金銀ノ分量ノ變化ハ金銀ニ對シテ交換セラレルトコロノ商品ヲ比較的ニ高ク、若クハ廉クスルコト以外ニ何等ノ影響ヲ及ボサナイ。貨幣ハ其ノ分量ノ大小ニ拘ラズ常ニ同ジク流通要具タル作用ヲスル。一國ニ使用セラル、貨幣額ハ其ノ國ノ商業交通ノ範圍ト比例ヲ保チ、

若シ一國ガ他國ヨリ速カニ富ニ増進ヲ來セバ其ノ國ノ貨幣額ハ増加スル。

「若シ一國ニ於テ金鑛ガ發見セラレルナラバ、其ノ國ノ金價ハ下落シ、從ツテ他國トノ割合ハ均等ヲ缺クデアラウ。其ノ場合ニ金ハ他ノ商品ト同ジ法則ニ支配セラレ、金價ノ廉キ國カラ高キ國ヘ輸出セラレル。而シテ諸國ノ金價ガ平衡スルニ至ツテ移動ハ止マル。輸出セラレル金ニ對シテ商品ガ輸入セラレル。斯カル場合ニ其ノ國ノ所謂貿易均衡ハタトヒ逆デアルトシテモ事實上甚ダ利益アル貿易ヲ行ツテ居ルコトハ明カデアル。何トナレバ其ノ國ハ自國ニ取ツテ利用ノ小ナルモノヲ輸出シテ利用ノ大ナルモノヲ輸入スルカラデアル。今若シ一國ガ、鑛山ノ發見ノ代リニ、英蘭銀行ノ如キ發券銀行ヲ創設スルナラバ、商人ニ對スル貸金又ハ政府ニ對スル前渡金ノ形式ニ於テ非常ニ多額ノ銀行券ガ發行セラル、デアラウ。其ノ場合ニ銀行ノ創設ハ鑛山ノ發見ト全ク同様ノ効果ヲ持ツテ居ル。即チ其ノ爲メ流通要具ノ額ガ増加シ、地金又ハ鑄貨ノ輸出ガ起ル。銀行ハ高價ナル金銀ニ代フルニ價值ナキ紙片ヲ以テスノデアルカラ其ノ範圍ニ於テ一國ノ収益力ガ増加スル。此ノ點ニ於テ紙幣ヲ空中路ニ譬ヘタ Smith ノ比喩ハ適切デアル。」

「貨幣ノ價值ガ下落スレバ物價ハ騰貴スル。此ノ惡弊ヲ矯メ、又諸國間ニ於ケル貨幣ノ價值ヲ平衡ニ歸セシムルコトハ、唯々硬貨ノ一部分ヲ輸出移動スルコトニ由ツテノミ行ヒ得ル。硬貨ノ輸出ハ決シテ一國ニ取ツテ損害デハナイバカリデナク、却ツテ必要ナルコトデアツテ、法律ヲ以テ之ヲ禁止シヤウトスルガ如キハ愚ノ至リデアル。硬貨ノ輸出ハ常ニ個人ノ隨意ニ任セテ置クベキデアル。蓋シ其ノ輸出ガ利益ヲ齎サナイ限り何人モ其ヲ他ノ商品ヨリモ多ク輸出スルヤウナコトハアルマイ

若シ金銀ノ輸出ガ自由デアレバ一國ノ貨幣ガ他國ノ貨幣ヨリ大ナル價值ヲ有ツト云フコトハアリ得ズ、又何レノ國モ貨幣ヲ餘分ニ持ツト云フコトハアリ得ナイ。例ヘバ佛國ニ於テ「オンス」ノ金ガ英國ニ於ケルヨリモ高ク、從ツテ佛國ニ於テハ同ジ商品ヲ餘計ニ買ヒ得ルナラバ、貨幣ハ英國カラ佛國ニ向ツテ流出スルデアラウ。

「銀行ガ銀行券ヲ發行シ且ツ其ノ正貨兌換ヲ停止セザル限りハ、硬貨ノ輸出ハ常ニ利益ヲ以テ行ハレル。何トナレバ、銀行券ノ流通ハ、全ク銀行券ノ存在セサル場合ニ流通スベキ貨幣額以上ニ出ツル筈ハナク、一旦銀行券ガ此ノ額ヲ超過スレバ超過額ハ直チニ銀行ニ歸リ來リ硬貨ニ兌換セラレ、硬貨ハ輸出セラルルカラデアル、是ニ由テ之ヲ觀ルト所謂逆ナル貿易均衡ハ常ニ必ズ流通要具ノ過多ニ基因スルモノデアル。」

「一國ニ於テ複本位制ガ行ハレテ居ル限り價值ノ不變的尺度ハ存在シ得ナイ 何トナレバ兩種ノ金屬ハ絶エズ其ノ比價ヲ變ズルカラデアル。Liverpool ハ金本位ヲ主張シ、Locke ハ銀本位ヲ力説シタガ、今ヤ金ガ價值ノ尺度ト成リツツアルヤウデアル。然シ若シ銀ヲ高ク評價シ金銀比價ヲ變動スレバ金ノ代リニ銀ガ價值ノ尺度トシテ用ヒラルルニ至ルデアラウ。而シテ現今ハ銀ヲ以テ最モ經濟的ニシテ最モ不變的ナル通貨トスベキ時代デアル。」

「各國ノ通貨ガ金銀又ハ兌換紙幣デ成リ立ツテ居ル場合ニ其ノ硬貨ガ摩滅輕量ノ弊ニ陷ルコトナケレバ其ノ硬貨ノ目方及ビ純分ノ比較ニ由ツテ爲替相場ガ決定セラレル。從ツテ斯カル場合ニハ爲替相場ハ現金輸送點ヲ超エテ高低スルコトハナイ。然ルニ通貨ガ價值下落セル不換紙幣デ成リ立ツテ

居ル場合ニハ爲替相場ハ其レニ應ジテ下落スルデアラウ。此ノ故ニ爲替相場ハ貨幣ノ價值ノ「バロメーター」デアルト云ヒ得ル。現在ノ英國ヲ顧ミルニ之レ殆ド全ク紙券通貨ノ姿デアル。此ノ紙券ノ價值ガ下落セザルヤウ極力努メナケレバナラヌ。而シテ此ノ紙券ノ價值ヲ上下スル權能ハ今ヤ實ニ英蘭銀行當局者ノ掌中ニ在ル。故ニ現今ノ銀行券ノ價值下落ニ爲替相場ノ下落ハ一ニ英蘭銀行當局者ノ罪デアル。蓋シ其ノ因ハ英蘭銀行ハ一七九七年以來正貨支拂義務ヲ免除セラレタル結果過多ノ銀行券ヲ發行シタルニアル。此ノ勢ヲ以テ進メバ現在ノ金紙ノ開キ二割ハヤガテ五割ニ達スルコトモ近キ將來ノコトデアラウ。

「人或ヒハ地方銀行ガ其ノ銀行券ヲ増發シタルコトヲ以テ通貨ノ價值下落ノ原因トスルカモ知レナイガ其レハ誤リデアル。何トナレバ地方銀行券ノ増減ニ伴ツテ増減スルモノデアツテ、英蘭銀行ガ常ニ主動的地位ニ立ツモノデアルカラデアル。」

「金銀ノ多寡ヲ計ルモノハ其ノ價格デナク利率デアルトノ說ニモ同意シ難イ。凡ソ利率ハ金銀ノ多寡ニ關係ナク資本ノ大小ニ由ツテ決定セララルモノデアル。而シテ資本ハ必ズシモ金銀カラ成立シテ居ナイ。且ツ銀行券ノ増發ハ毫モ資本ヲ増加シナイカラ其ノ爲メ利率ガ下落シナイノハ當然デア

ル。」
「以上ノ所論ニ由リ、現今ノ弊害ヲ救済セントスレバ、英蘭銀行ガ漸次其ノ銀行券ノ流通高ヲ減ジ行キ金紙ノ價值ニ開キヲ生ゼシメナイヤウニスルコトガ肝要デアル (McCulloch 編 Ricardo 全集) (二六三頁—二八七頁參照)」

此ノ「地金騰貴論」ノ論旨ハ Ricardo ノ持論ヲ造リ、彼ノ貨幣ノ價值ニ就テノ根本思想ニシテ後

ニ「原論」ニモ掲ゲラレタルモノモ既ニ本論ニ示サレ、尙ホ貨幣水準説ニ由ル貿易均衡論ノ新シキ説明、其レカラ派生スルトコロノ發券銀行ノ職能ノ解説、硬貨自由輸出論ノ提唱モ行ハレタ。本位制ノ問題其ノ他實際上ノ合目的的改革案ニ就テハ必ズシモ此ノ論文ノミヲ以テ Ricardo ノ決定的意见ヲ發表スルモノトスルコトハ出來ナイノデ、或ヒハ此論文第四版ノ「附録」(Appendix, Observation, on some passages in an article in the Edinburgh Review on the depreciation of paper currency; also suggestions for securing to the public a currency as invariable as gold, with a very moderate supply of that metal,) 或ヒハ Ricardo ノ論議ノ影響トシテ議會ニ於テ任命セラレタル所謂「地金委員」(Francis Horner, Henry Thornton, William Huskisson 等知名ノ士二十一名カラ成ル)ノ「報告書」(Report together with minutes of Evidence and Accounts, from the Select Committee to inquire into the causes of the High Price of Bullion, and to take into consideration the state of Circulating Medium and of Exchange between Great Britain and Foreign Parts. London 1810.) 或ヒハ Ricardo 並ニ彼ト同様ノ根據ニ立ツ「地金委員」ノ意見ニ反對スル人々ノ中ニ特ニ注目スベキ Charles Bosanquet ノ Practical Observations on the Report of the Bullion Committee (2nd ed. connected with a supplement: London 1810) 又論駁シタル Ricardo ノ「返書」(Reply to Mr. Bosanquet's Practical Observations on the Report of the Bullion Committee, 1811.) 等ヲ點檢スル必要ガアル。然シ此等ニモ勝リテ一層時局ニ投ジタ Ricardo ノ著作ハ一八一六年ニ公ニシタトコロノ「通貨議」(Proposals for an Economical and Secure currency.) デアル。此レニ由ツテ彼ハ方ニ議會ノ問題ト成ラントシテ居タ三個ノ問題、即チ (一) 英蘭銀行ハ其ノ銀行券ニ對シ

テ所持人ノ要求次第正貨ヲ支拂フベキデアルカ、(二)國債整理ニ就テ政府ト銀行トノ間ニ締結シタル一八〇八年ノ約款ヲ變更スベキデアルカ、(三)銀行ガ其レニ由ツテ利益ヲ得ルトコロノ多額ノ一般預金ニ對シテ公衆ハ如何ナル報酬ヲ得ベキデアルカ、ニ對スル彼ノ見解ヲ發表シタ。次ニ其ノ論旨ヲ示ス。

「金銀スラ其ノ價值ニ變動アルコトヲ免レナイカラ世ノ中ニ固有ノ價值尺度ナルモノハ存在シナイノデアルガ、硬貨ハ不完全ナガラ比較的最良ノ價值尺度デアルト云ハネバナラス。金銀ガ通貨トシテ用ヒラレル場合ニ貨幣ノ價值ハ金屬ノ價值ト一致スベキデアルガ、常ニ必ズシモ然ラズシテ時ニ貨幣ノ價值ガ下落シテ地金ノ市價ガ法價ヲ超エルコトガアル。金ハ小量デ大ナル價值ガアルカラ富メル國ノ貨幣トシテハ適當デアルケレドモ、其ノ價值ガ大ナル爲メ戰時又ハ事業不振ノ時期ニハ貯藏隱匿セラレル虞レガアル。之ニ反シテ銀ハ其レニ對スル需要ガ繼續的デアツテ、總テノ國ガ其レヲ貨幣トシテ用フルガ故ニ、價值尺度トシテハ金ニ勝レテ居ル。故ニ銀ヲ以テ唯一ノ永遠ノ本位貨トスベキデアル。」

「然シ幣制ノ理想ハ人々ガ漸次金銀ノ使用カラ解放セラレ行キ、高價ナルモノカラ無價值ノモノヘ移行行クトコロニ存スル。貴金屬ヲ貨幣トシテ用フルコトニ因ツテ行ハレタル進歩ガ如何ニ大デアツタトハ云ヘ、貴金屬ガ紙片ニ由ツテ代置セラレルコトニ由ツテ達セラル、改良ハ一層大ナルモノデアル。若シ銀行ガ再ビ正貨支拂義務ヲ命ゼラル、ナラバ、銀行ニ取ツテ損失コソアレ、公衆ニ取ツテ其レニ對應スル何ラノ利益モナイデアラウ。今一磅券、二磅券、五磅券等ヲ用ヒテ居ル人々ガ

金貨ヲ用フルコトヲ許サレルナラバ彼等ハ爭ツテ其レヲ取ラントシ、結局、廉キ紙ノ代リニ高キ金ヲ以テ置キ換エラレオバナラス。此レニ由ツテ國家ハ鑄造費ヲ損失シ銀行ハ資本ノ縮少ヲ行ハネバナラス。又爲替相場ノ下落毎ニ金貨ハ溶解シテ輸出セラルデアラウ。故ニ幣制ノ理想ハ各人ニ價值尺度ノ確固タルモノナルコトヲ保障シ同時ニ最モ費用少キ通貨ヲ用フルコトデアアル。其ノ方法ハ銀行ヲシテ銀行券ノ兌換ニ際シテ金貨ヲ引渡ス代リニ本位貨ノ純分ト法價トヲ標準トシテ鑄造セザル金銀ヲ引渡サセルニ在ル。斯クスレバ銀行券ノ流通額ヲ減ズルコトナクシテ地金ノ價以下ニ下落スルコトヲ防ギ得ル。他方、銀行券ガ地金ノ價值以上ニ騰ルコトヲ防グニハ標準金一「オンス」ニ對シテ三磅十七志ノ銀行券ヲ與ヘナケレバナラス。又銀行ノ手數ヲ省ク爲メニ三磅十七志十片半ノ法價ノ割合デ銀行券ト兌換セラル、金ノ分量及ビ三磅十七志ノ割合デ銀行ニ賣込マル、金ノ分量ハ二十「オンス」以上デナケレバナラス。同時ニ硬貨ノ輸出入ハ全ク自由ニスベキデアアル。

「此ノ場合ニ金地金ヲ採ルベキカ銀地金ヲ用フベキカト云フ問題ガ起ルガ、銀ガ本位貨ノ場合ニハ銀地金ノミ、金ガ本位貨ノ場合ニハ金地金ノミ、兩者ガ併用サレテ居ル場合ニハ成ルベク銀ガ主ト成ルヤウニ工夫スベキデアアル。斯カル幣制ノ下ニ於テハ銀行ハ決シテ難關ニ遭フコトハアルマイ。一般的恐慌ノ場合或ヒハ戰爭ノ場合ニハ人々ガ財産ヲ現實ニ所有シ又隱匿スルニ最モ便利ナル方法トシテ貴金屬ヲ所持スルコトヲ熱望スルカラ、斯カル場合ハ如何ナル幣制ノ下ニ於テモ銀行ハ困難ナル立場ニ在ルノデアアル。一國ノ財産ヲ悉ク硬貨又ハ地金ニ換價シ得ルホド多量ノ硬貨又ハ地金ヲ有シテ居ル國ハナイ。故ニ銀行ハ恐慌ニ際シテハ必然的ニ難局ニ當ル。此レ實ニ一七九七年ノ事情

デアツタ。而シテ人々ノ豫想スル如ク銀行ガ當時ノ政府ニ多額ノ貸付ヲ行ツタカラデハナイ當時ノ恐慌ハ銀行ニモ政府ニモ基カズ、人々ノ憶病ト杞憂トニ因スルモノデアル。其レハヨシ銀行ガ政府ニ一志ノ貸付ヲモシナカツタトシテモ、又銀行ニ二倍ノ資本ガアツタトシテ、同様ニ起ツタデアラウ。(一七九七年ノ事件ニ就テ、以上ハ Thomson ノ所説ト一致シテ居ル。前掲拙稿參照。然ルニ次ノ觀察ニ至ツテハ全ク相表裏セルコトヲ注意スベキデアル。)若シ銀行ガ恐ル、トコロナク正貨ノ支拂ヲ續行シテ居タナラバ其ノ硬貨ヲ悉ク盡シテ了フニ先ツテ恐慌ハ多分鎮マツタデアラウ。」「通貨ノ保障ハ必要デアル。惡鑄貨ハ排斥シナケレバナライ。殊ニ紙幣ノ行ハレテ居ル場合ニ其ノ價值ヲ確保スルコトハ大切デアル。國家ハ全力ヲ盡シテ紙幣ノ價值ノ安定ヲ圖ラネバナラス。其ノ爲メ地方銀行ハ銀行券發行額ニ比例シテ國庫證券ヲ供託スベク、英蘭銀行券ニ就テハ政府自ラ保證ノ任ニ當ルベキデアル。」

「最後ニ Grenfell (『地金委員』一人。銀行問題ニ就テハ Ricardo ハ此ノ人ニ負フトコロ多シ。) ノ云フ如ク現今英蘭銀行ハ莫大ナル利益ヲ貪ツテ居ル。銀行ハ一般預金・國債整理・銀行券發行ノ如キ國家的又ハ社會的作用カラ獲タ利益ヲ以テ銀行關係者ノ私腹ヲ肥スコトノミヲ圖ツテ居ルガ、斯カル利益ハ公共ノ福利ヲ増進スル爲メニ充用スベキデアル。少クトモ英蘭銀行ノ報告書ヲ公表シナケレバナラス。本來カラ云ヘバ斯カル發券銀行ハ寧ロ國營トナスヲ適當トスル。」(Meunier 編 Ricardo ヲ集)

此ノ發券銀行國營論ハ彼ノ死シタ翌年一八二四年ニ發表セラレタトコロノ「國立銀行設立案」(前掲)ニ於テ結晶シタ。Ricardo ニ從ヘバ、英蘭銀行ハ性質上全ク異ナレル二種ノ職能ヲ併セ營ンデ居ル一ハ銀行券ノ發行、他ハ商人ニ對スル貸付デアル。此ノ二職能ハ必然的關係ガ無いノデアルカラ此

等ヲ別々ノ機關ニ委ネルコトニシテモ、國家ニモ商人ニモ何ラ不利益ヲ醸サナイ。却ツテ發券權ヲ國家ニ委ネル方ガ商人ハ以前ト同様ノ便宜ヲ保チツ、政府ニ大ナル利益ヲ齎ラシ、從ツテ國民一般ノ利益ヲ増加スルコトニ成ル。何トナレバ政府ハ現在國民ノ名ニ於テ銀行ニ對シ銀行券ノ流通總額以上ノ負債ヲシテ居ルガ、今若シ政府ガ之レヲ銀行カラ借りル代リニ自ラ紙幣ヲ發行スレバ、少クトモ現ニ毎年銀行ニ對シテ支拂ヒツ、アルトコロノ利子ダケデモ助カルカラデアル。尙ホ Ricardo ハ此ノ「遺稿」ニ於テ國營銀行設立ニ關スル十五個條ノ注意事項ヲ掲テ居ル（Meulloch 編 Ricardo 全集）五〇三頁—五〇九頁參照）

「原論」第二十七章ニ收メラレタ「通貨及ビ銀行ニ就テ」ハ彼ノ貨幣銀行問題ニ關スル意見ヲ簡短ニ纏メ上ゲタモノデアツテ、其ノ根本思想ハ既ニ「金價騰貴論」「通貨議」ニ發表サレテ居ル。

三

Ricardo ノ貨幣概念ノ進歩ニ就テ理論的考察ニ入ルニ先チ、其ノ進歩ヲ可能ナラシメタル第十九世紀初期ノ英國貨幣狀態ヲ顧ミ、事務局ニ對スル彼ノ見解並ニ改革案ヲ簡短ニ叙述シテ見ヤウ。

一七九七年カラ一八一九年ニ至ル二十餘年ノ貨幣狀態ヲ摘記スルト、（一）英蘭銀行券ハ兌換性ヲ奪ハレ、（二）自ラ銀行券ノ發行ガ無制限トナリ、（三）銀行券ハ法律上支拂要具デハナカツタ（一八三〇年三月初メテ法定支拂要具ト成ル）ケレドモ、事實上三千人ノ商人、銀行家ガ兌換義務停止以後、直テニ銀行券ヲ彼等ノ間ニ於テ銀行券ヲ支拂要具トシテ授受スルコトヲ宣言シタカラ、法定支拂要具ト同一ノ職能ヲ務メツツアリ、（四）金地金ノ輸出ハ禁ゼラレ、（五）金ニ對スル打歩ヲ計算スルコトモ禁ゼラレテ居タ。

斯カル事情ノ下ニ在ツテハ貨幣取引ニ故障ノ生ズルコトハ當然デアル。ソコデ Ricardo ハ金紙ノ開キハ紙券ノ價值下落ノ徴デアリ、紙券ノ價值下落ハ其ノ兌換性ヲ奪ハレタル結果デアルト判定シタ。當時ノ貨幣狀態ガ物價ト爲替相場トニ惡キ影響ヲ及ボシタルコトハ確カデアルガ、Ricardo ハ其ノ因果關係ヲ餘リニ誇張シハシナカツタカ、即チ當時ノ物價騰貴、爲替相場下落ハ他ノ原因ニ基クトコロ少クハナカツタデハナイカ。此ノ意見ヲ抱イテ立ち、通貨ノ膨脹ト物價ノ騰貴トノ間ニ因果關係ナキコトヲ極力主張シタ人ハ Thomas Tooke デアル。爲替相場ニ就テモ Ricardo ハ銀行券ノ過多ヲ以テ其ノ下落ノ原因トシタ。彼ハ通貨ニ無關係ナル Unfavourable Balance of Trade ヲ全ク認メズ、而カモ貨幣ガ輸出セラル、場合ニハ常ニ The cheapest exportable commodity トシテ輸出セラル、ノデアルトスルノデアツテ、所謂貨幣水準説ニ由ル貿易均衡論ヲ行フノデアルカラ、此ノ點ニ於テモ Tooke ト其ノ立場ヲ異ニスル。例ヘバ一八〇七年及ビ一八〇八年ノ凶作ハ穀物ノ輸入ヲ必要トシタ故、其レカラ生ズル對外支拂ハ爲替相場ノ下落ヲ起シタガ、Ricardo ハ此ノ場合ニモ通貨膨脹ニ由ル原因ノミヲ説ク。此レヲ特ニ攻撃シタノガ前述ノ Bosanquet デアル。

斯クノ如ク Ricardo ノ議論ハ片面的デアルトノ譏ヲ受ケナガラモ、彼ノ説クトコロハ大イニ議會ヲ動カシ、カソ「地金委員」ノ任命以後、屢々委員會ニ出席シテ所信ヲ披瀝スルコトヲ得タ。其ノ爲メ Thornton ト Huskisson トニ由ツテ執筆セラレタト云フ「地金委員報告書」ニ於テハ隨所ニ彼ノ影響ヲ見ルコトガ出來ル。誠ニ彼ハ所謂「地金論戰」 Bullion controversy ニ於ケル一方ノ雄將トシテ名譽アル地位ヲ占メ、遂ニ一八一九年英蘭銀行ノ正貨支拂再開ニ至ツテ凱歌ヲ擧ゲタノデア

ル。(Ricardoノ議會・委員會ニ於ケル答辯ハ、Reports from the Secret Committee on the Expediency of the Bank resuming Cash Payments, offered by the House of Commons, to be printed 5th April and 6th May, 1819. p.133, p134, p.139. 及 Reports by the Lords Committees appointed to inquire into the state of the Bank of England; with reference to the Expediency of the Resumption of Cash payments with minutes of Evidence and an appendix, ordered to be printed 7th May, 1819. p.184, p.200. 見^三)

Ricardo ハ當時ノ貨幣狀態ニ存スル缺陷ヲ指摘シタバカリデナク、進ンデハ其ノ改良意見ヲ開陳シタ。Ricardo ノ幣制改革案ハ大體二種ニ大別セラレル。一ハ根本的ノ改革案デ、他ハ個々ノ改良案デアル。英蘭銀行ノ國營トカ紙幣ノ強制通用トカラ主張シタノハ前者ニ屬シ、一七九七年ノ兌換停止ノ始末ヲ提案シタノハ後者ニ屬スル。

第十九世紀前半ニ於ケル英國ノ貨幣銀行問題ニ關スル二個ノ重要ナル法律、即チ Robert Peel ニ由ツテ提案セラレタル一八一九年及ビ一八四四年ノ法律ハ共ニ Ricardo ノ主張ヲ基礎トシテ居ル。一八四四年ノ法律ハ彼ノ死後既ニ二十一年ヲ經テ居ルニモ拘ラズ其ノ中ニ生ケル彼ノ精神ヲ見出スコトガ出來ル。況シテ一八一九年ニ於テハ彼ハ或ヒハ議會ニ、或ヒハ冊子ニ、盛シニ其ノ所信ヲ陳ベタコトデアルカラ其ノ影響ノ偉ナルコト想像スルニ難クナイ。殊ニ英蘭銀行ノ支拂義務ノ再始ニ就テ彼ハ決定的ナル貢獻ヲシタ。Peel ハ當時年齒纔カニ三十一ノ若輩デアツタガ下院ノ委員會ニ長トシテ、Ricardo ト共鳴シ「カレンシー・プリンシブル」ヲ奉ズル者ト成ツタコトハ注目ニ値スル而シテ Ricardo モ亦若キ Peel ニ由ツテ己ガ意見ノ行ハル、コトヲ見テ頗ル満足シタコトハ、彼ガ友ニ送ツタ書簡ノ中ニモ現ハレテ居ル (Letters to McCulloch, p. 22, dated April 7, 1819; Letters to Trower, p. 7, dated July 8, 1819.)

一八一九年ノ法律ノ主旨ハ、一定ノ期間後ニ英蘭銀行ガ正貨兌換義務ヲ再ビ履行シ、英國幣制ノ健全ナル發達ヲ圖ルニアツタ。更ニ Ricardo ノ主張シタル地金兌換制度、鑄貨ノ鎔費並ニ輸出ノ自由等モ認メラレタ。正貨支拂ノ再始ハ Ricardo ニ從ヘバ、金ノ市價ト法價トガ一致スルコトヲ目的トシテ居ル。即チ正貨支拂ノ再始ニ由ツテ銀行券ノ回收從ツテ收縮ヲ行ヒ、斯クシテ金市價ト法價トハ平衡ヲ保チ得ルニ至ルノデ、此ノ狀態コソ英國幣制ノ健全ナル姿デアルト信ジタノデアアル。一八四四年ノ法律ハ、一八一九年ノモノニ比シテ一層根本的ナル問題ニ觸レテ居リ、ソレダケ Ricardo ノ根本的改革案ノ精神ガ著シク顯ハレテ居ル。Ricardo ハ其ノ著書・書簡・演說等ニ於テ常ニ繰返シテ幣制ノ最高目的ハ紙幣流通ノ確保デアルト云ツテ居ル。予ガ第一ニ探ルトコロハ紙幣流通ノ他ニハナイ。"My first preference is to have nothing but a paper circulation." トハ彼ガ一八一九年ノ委員會デ述ベタ言葉デアアル。彼ハ一國ニ金貨ノ流通アルハ「死財」^{Dead Stock}ノ存在スルコトデアアル、從ツテ本來銀行券ヲ正貨デ兌換スルコトハ贊成スベキコトデハナク、人々ガ地金デ兌換セラレルコトヲ以テ満足スル時代ガ來ルコトヲ翹望シタノデアアル (Letters to Trower, p. 74, dated May 28, 1819)。ケレドモ彼ハ決シテ無準備不兌換ノ紙幣制度ヲ築カウトシタノデハナイ。彼ニ由ツテ考案セラレタル紙幣制度ハ、金ヲ價値ノ尺度トシテ維持シ、而カモ最小ノ金準備ヲ必要トシ、由テ以テ紙幣ノ價値下落ヲ防止セントスルモノデアツタ。斯クノ如キ紙幣制度ノ中樞機關ハ須ラク國家自ラ之ヲ經營スベシト云フ立場カラ彼ノ英蘭銀行國營案ガ産レタノデアアル。此ノ點ハ經濟的自由主義ノ根本思想ト矛盾スルヤウニ見エルガ、極端ナル個人主義的の見解ニ從ヘバ通貨ハ國家ノ責任範圍ニ屬スルモ

ノデアアルカラ、銀行券ヲ通貨トスル以上、當然英蘭銀行カラ國ニ移管サルベキモノデアルト Diehl
ハ評論シテ居ル。(Karl Diehl, Sozialwissenschaftliche Erläuterungen zu David Ricardos Grundsätzen der Volkswirtschaft.)
(und Bestimmung. II. Tiel. S. 190-1s. 301. 此他ノ點ニ就テモ Ricardo 評論ニ於テ暗示セラルルコトガ多い)
尙ホ Ricardo ノ英蘭銀行國營案ノ動機ニハ當時銀行ガ暴利ヲ貪リ、實際上銀行券ノ濫發ニ由リ世ニ
惡弊ヲ流セルコトニ對スル不信任ノ意モ含マレテ居タ。斯クテ一八四四年ノ法律ノ出タ結果ハ英蘭
銀行ハ大イニ其ノ權能ヲ制限セラレ、同時ニ一八一九年ノ法律ニ於テハ、地金兌換制度ハ一八二三
年マデト云フ期限付デアツタノヲ改メテ完全ナル地金準備制度トシ、銀行券ノ發行ト正貨ノ發行ト
ハ全ク同様ニ取扱ハル、コトニ成ツタノデアアル。

今日 David Ricardo ノ名ヲ聞クノハ多ク或ヒハ差益地代ノ概念ガ說カル、場合、或ヒハ Marx ノ
勞働價值學說ノ淵源ガ索ネラル、場合デアアル。然シ Ricardo ガ他ノ何レノ部門ニ於ケルヨリモ貨
幣銀行問題ニ於テ彼ノ識見ノ卓越セルコトヲ示シテ居ルコトハ多クノ經濟學者ガ認メルトコロデア
ル。彼ノ方法論又ハ他ノ個々ノ學說ニ對シテハ銳イ鋒先ヲ向ケル人々デスラ、彼ノ貨幣論ノ前ニ
佇ンデハ無敵ノ巨人ノ前ニ出デタル如ク畏敬ノ念ヲ起スノデアアル。Thorold Rogers ハ其ノ著「歷史
ノ經濟的解釋」"The Economic Interpretation of History." 全卷ヲ通ジテ Ricardo ノ方法論ニ對スル
死刑ノ宣告ヲ行ツタニ等シイケレドモ、尙ホ Ricardo ノ貨幣論ガ賞讃ニ値スルモノナルコトヲ附
記スルコトヲ忘レナカツタ。(ibid, London 1906, p. 185; p. 225.) 然ルニ Karl Diehl ハ此レト全ク
反對ニ、Ricardo ハ如何ナル方面ニ於テモ此ノ貨幣論ニ於ケルホド重大ナル誤謬ニ陷ツタコトハナ
ク、此レホド不幸ナル影響ヲ經濟上ニ將タ法律上ニ及ボシタモノハナイ、他ノ學說ハタトヒ缺點ハ

アルニセヨ貨幣論ヨリハ明確ニ論ゼラレ、且ツ經濟生活ト一層眞實ナル關係ヲ保ツテ居ルト、評論スル。(前掲 Diehl 著) (二七一頁以下)

予ハ茲ニ於テ、前ニ紹介シタル諸文献ヲ通ジ、且ツ通説ニ反スル Diehl ノ言説ヲモ思ヒニ止メツツ、Ricardo ノ貨幣理論一般、殊ニ彼ノ貨幣概念ヲ考察シテ、貨幣學說史上彼ノ正シキ地位ヲ確立シタイト思フ。先ヅ Diehl ハ、「Ricardo ガ貨幣論ニ優秀ナル地位ヲ占メ得ルト考ヘラルルハ二個ノ假定カラデアル。即チ一ハ彼ガ抽象的理論家デアツテ斯カル問題ヲ徹底的ニ取扱ヒ得ルト云フコト、他ハ彼ガ金融界ノ中心ニ坐シ斯カル問題ヲ取扱フニ便ナルコト、之レデアル。然ルニ理論的根據ヲ『利己心』ニ置クトコロノ彼ハ果シテ斯ノ問題ヲ完全ニ解決シ得ルカ。又タトヒ金融ノ中樞ヲ握ツテ居ル人デモ古來隨分矛盾セル義論ヲ吐イテ居ルデハナイカ。」ト云ツテ、Ricardo ノ貨幣論ニ對スル不信ノ第一聲ヲ發シテ居ルガ、凡ソ一經濟學者ガ主張スル理論若クハ彼ガ用フル概念ノ正否ヲ判斷スルニハ斯クノ如キ一般の假定ニ基クコトハ出來ズ、從ツテ其ノ假定ヲ云々スルコトニ由ツテモ何等得ルトコロハナイノデアル。其レ故ニ Ricardo ノ貨幣理論並ニ貨幣概念ヲ正シク批判シヤウト思ヘバ、一方ニ於テ當時ノ經濟事情ヲ、他方ニ於テ彼ノ文献ヲ詳細ニ比較研究スル必要ガアル。之レ予ガ前ニ第十九世紀初期ノ英國狀態ヲ背景トシテ Ricardo ヲ見タ理由デアル。

Ricardo ノ貨幣論ノ功績トシテ Diehl モ亦認ムルモノガエツアル。曰ク、貨幣ニ就テノ「マーカンチリズム」ノ思想ノ排斥。曰ク、幣貨ガ價值尺度ナリトノ思想トノ戰闘。曰ク、單本位制ノ主張而シテ此等ノ思想ガ必ズシモ Ricardo ニ由ツテ初メテ産レ出サレタモノデナク、Hume, Locke, Li-

verpool 等ニ夙ニ其ノ代辯者ヲ有ツテ居ルコトハ Diehl ノ云フ如クデアル。然シ此ノコトニ由ツテ決シテ Ricardo ノ價值ハ下リハシナイ。却ツテ斯クテコン貨幣學說史上彼ノ正シキ地位ガ定マルノデアル。

貨幣獲得ハ國家ニ取ツテ一ノ自己目的デアルトノ「マーカンチリズム」ノ思想ハ、Hume ガ一七五二年ニ著ハシタ論文ノ中デ鋭ク攻撃シタ。彼ハ貨幣ヲ油ニ譬ヘ、貨幣ニ由ツテ經濟的交通ノ廻轉ガ圓滑ニ行ハレテ居ルノデアルト考ヘタ。「貨幣ノ缺乏ハ一國內ニ於テ自ラ決シテ損害デアリ得ナイ何トナレバ人口ト商品トコン公ノ共眞ノ力デアルカラ」(Essay moral, political and literary, ed by Green and Grose, London 1875. Vol. I, p. 319.) Ricardo モ亦同様ノ見解ヲ懷キ、屢々、貨幣ハ國民經濟上單ナル補助機關デアルカラ、出來ルダケ費用ノカカラス材料デ造ラネバナラスト云フコトヲ説イテ居ル。

次ニ Ricardo ハ貨幣ガ價值ノ尺度デアルトノ思想ヲ排斥シ、貨幣自體モ他ノ商品ト同ジク其ノ價值ガ變ルモノデアリ、貨幣モ商品モ同一ノ價值法則ニ支配セラレテ居ルモノデアル、從ツテ價值ノ變動ト云フコトニ就テハ貨幣ト商品トハ質的ニ差異アルモノデハナク量的ニ差異アルニ過ギナイト考ヘタ。此ノ點ニ於テ彼ニ明カニ Locke ノ祖述者デアル。(Some considerations of the Consequences of the Lowering of Interest and Raising the Value of Money. Locke's Works Vol. IV. London 1824, p. 36.)

貨幣ノ價值ガ變動スルト云フ考ヘカラ單本位制ノ主張ハ自ラ出テ來ル。然シ金銀何レヲ選ムカト

云フ問題ニ成ツテ、Ricardo ガ Liverpool ニ反對シテ銀本位ヲ採ツタコトハ、當時ノ事情ヲ知ラナケレバ領キ難イデアラウ。其ノ頃銀價ハ金價ニ比シテ變動ガ少カッタ。其ノ譯ハ諸國ヲ通ジテ銀ノ需要ガ規則的デアツタカラデアル (Langhlin, the Principles of Money, New York, 1900, p. 40 n 參照)。此レ彼ガ銀本位ニ傾イタ所以デアアルガ、若シ彼ガ其ノ後ノ貴金屬市場ノ變遷ヲ見タナラバ、恐ラクハ直チニ金本位說ニ服シタデアラウ。否彼自ラ一八一九年ニハ金本位ヲ推賞シタ事實サヘアル。 (Reports from the Secret Committee)。 (etc. 前掲 Diehl 著二二三頁ヲ見)。

然シ乍ラ Ricardo ノ貨幣理論ニ於テ特ニ注意スベキハ其ノ數量說ニ對スル關係デアラウ。彼ハ「マーカンチリズム」ノ思想ヲ脱却シテ貨幣ノ商品性ヲ押シ詰メテ行ツタ結果、遂ニ貨幣ノ價值モ商品ト同ジク其ノ生産ニ必要ナル勞働ノ分量ニ由ツテ決定セラルルト云フ結論ニ達シタ。然シ貨幣ト商品トハ常ニ必ズ同一ノ價值法則ニ支配セラルルモノデハナク、貨幣ガ其ノ生産ニ必要ナル勞働量ニ由ツテ價值ヲ定メラルルハ、一國ノ貨幣量ガ其レニ由ツテ置キ換エラルル商品量ト正シキ割合ニ於テアル場合ニ限ル。過多ノ貨幣ガ存在スレバ其ノ交換價值ハ下落シ、從シテ物價ハ騰貴スルニ反シ、貨幣ノ量ガ過少ナレバ其ノ價值ハ騰貴シ、從ツテ物價ハ下落スルト云フ、通貨ト物價トノ機械的關係ヲ彼ハ認メタ。ケレドモ彼ハ Locke, Montesquieu, Hume, Harris, 其ノ地ノ先輩ノ其レノ如キ野粗ナル數量說ヲ以テ満足シテハ居ナカッタ。例ヘバ Proposals ノ中デ、貨幣價值ハ單ニ其ノ絶對の數量ニ由ツテ定スルノデハナクテ、實際ニ支拂ニ用ヒラルル數量ニ由ルモノデアルトヲ言ヒ、又タトセ絶對の數量又ハ其ノ支拂額ガ同ジデアツテモ經濟生活ノ程度ニ由ツテ、手形ノ流通スルト否トニ由ツテ大イニ貨幣ノ價值ニ差異ガアルコトヲ述ベテ居ル (McCulloch 版)。(三九八・九頁)。而カモ尙ホ抽象的命

題トシテハ、他ノ事情ニシテ等シケレバ、物價ハ通貨ノ膨脹ニ由リ騰貴シ、其ノ收縮ニ由リ下落シ更ニ爲替相場 貿易均衡ノ順逆モ一國ノ通貨量ノ關係ニ由リ決定セラレルト云フノガ Ricardo ノ考ヘデアツタ。彼ガ此ノ思ヒヲ深クシタノハ實ニ不換銀行券ガ唯一ノ支拂要具トシテ横行シテ居タ當時ノ事情ニ基クコトハ勿論デアル。

斯クノ如キ貨幣數量說ハ當然ノ論結トシテ貨幣水準說ニ由ル貿易均衡論ガ生レ、其ノ結果貨幣ノ自由ナル輸出入ヲ要求スルニ至ルモノデアル。即チ Ricardo ハ貨幣輸出入ヲ法律デ禁止スルコトヲ愚ナリト唱ヘタ。此ノ貨幣輸出入ノ自由ト云フ叫聲ハ第十九世紀初頭ニ於ケル自由ノ爲メニスル奮闘ノ第一聲デアツタ。Rogers ハ英國ニ於ケル自由貿易ノ發達ヲ述ベタトキ曰ク、「地金ノ貿易及ビ對外爲替ハ煩ハシキ制限カラ解放セラレ、シカモ國威ハ通貨ノ確實性ヲ損傷セラレズニ維持セラレタ」ト〔歷史ノ經濟的解釋〕（一九〇年・三四九頁）。此ノ自由貿易論ノ貨幣、正シク言ヘバ貴金屬ヘノ擴張ハ、Hume モ氣付イタトコロデアル。（Essays etc, ed. by Green and Grose, London 1876, p. 333.）

以上述ベタトコロハ、Ricardo ノ貨幣理論ノ重要ナル諸點ニ就テ貨幣學說史上彼ノ先輩ト如何ナル關係ヲ有タルカニ就テ若干ノ指示ヲ爲シタルニ過ギナイガ、最後ニ彼ノ貨幣概念ソノモノノ發展ニ就テ考ヘテ見タイ。此レ本文ヲ起シタ最初ノ動機デアリ、且ツ予ノ最モ重要視スルトコロデアルトトヒ其ノ言フトコロ簡單デハアルケレドモ。

四

昔カラ今ニ至ルマデ貨幣ナル概念ニ結び付ケラルル普通ノ表徴ハ、價值保有要具、價值測定要具、流通要具、交換要具、支拂要具、計算要具等デアル。所謂金屬主義ト名目主義トノ論争ヲ初メ總テ貨幣論ノ論争ハ其ノ形式的。論理的方面カラ觀レバ單ニ其ノ表徴ノ何レヲ力說強調スルカノ差異ニ起因スルモノデアル。例ヘバ古キ金屬主義學說ハ、其ノ内容カラ觀レバ、金銀ヲ崇拜スル「マールカ・ンチリズム」ノ遺物デアルケレドモ、其ノ形式カラ觀レバ貨幣概念ニ於テ主トシテ價值保有要具、價值測定要具、交換要具等ノ表徴ヲ力說シタモノデアリ、新シキ名目主義學說ハ交換要具、支拂要具、計算要具等ノ表徴ヲ強調シタモノデアリ、其ノ過渡期ニ於テ或ヒハ流通要具、或ヒハ支拂要具ノ表徴ヲ特ニ高ク掲ゲ、最モ極端ニ進ミタル場合ニハ計算要具ノ表徴ヲノミ舉ゲルノデアル。然シ乍ラ貨幣概念ニ本質的ナルモノハ果シテ何レノ表徴デアルカト云フコトハ、法律的ニカ經濟的ニカ、其ノ觀點ヲ定メタル後デナイト決スルコトガ出來ナイノデアル。何トナレバ今日ハ既ニ貨幣ハ經濟的概念デアルト共ニ法律的概念デモアルカラデアル。ケレドモ茲ニハ法律的概念トシテノ貨幣ヲ云爲スル事ハシナイ。言フマデモナク貨幣概念ハ法律的ニ構成セラレル以前ニ經濟的ニ構成セラレ、又經濟的貨幣概念コソ常ニ法律的貨幣概念ニ優越シ、經濟的貨幣概念ノ變化ト共ニ法律的貨幣概念ハ其レニ追隨シテ變化スルモノデアル。故ニ今 Ricardo ノ貨幣概念ヲ檢スルニ當ツテモ經濟的概念トシテ行ハントスル。

又一概ニ Ricardo ノ貨幣概念ト稱シテモ、前ニ掲ゲシ如ク時ヲ隔テテ多クノ文献ガ彼ニ由ツテ與ヘラレタノデアツテ、其ノ間常ニ同一ノ内容ヲ捕捉シテ居ルト云フコトハ出來ナイ。必ズ其ノ個々

ノ文献ニ就テ研究スルコトヲ要スル。然ル後ニ於テ若シ彼ガ終始一貫常ニ變ラザル内容ヲ捕捉スルトコロノ貨幣概念ヲ使用シテ居ルコトガ判ツタナラバ、彼ノ貨幣概念ヲ一概ニ云爲シテ其ノ當否ヲ決スルコトガ出來ルデアラウ。然ルニ予ノ讀ンダトコロデハ彼ノ個々ノ文献ニ於ケル貨幣概念ノ間ニ、固ヨリ一文献中ニ於テ差異ハナイトシテモ、一ノ文献ト他ノ文献トノ間ニ於テ階段的ニ、差異ガアルコトヲ發見シ、其レヲ既ニ述ベタル意味ニ於テ「概念ノ進歩」ト觀タノデアル。

故ニ Diehl ガ「Ricardo ノ主要ナル弱點ハ貨幣ノ本質ヲ見失ツタトコロ、即チ貨幣ハ總テノ物ニ勝ツテ總テノ種類ノ要求ニ對スル唯一ノ合法的最終ノ支拂要具デアルト云フコトヲ忘レタコトニ存スル。タトヒ貿易差額ノ起ル原因ガ一國ノ貨幣量ニアルトシテモ、商品ト商品トノ直接貿易モアリ又一國ガ或ル商品ヲ是非輸入セネバナラス時ニハ其ノ決濟手段トシテ貨幣ヲ用ヒネバナラスコトモアルト云フコトヲ考ヘテバナラス。更ニ彼ハ貨幣ノ交換要具及ビ價值保有要具トシテノ二職能ヲ無視シタ。貨幣ガ輸出セラレタナラバ必ズ通貨ガ減ジ、貨幣ガ輸入セラレタナラバ必ズ通貨ガ膨脹スルト云フコトハナイ。貨幣ノ輸出入ニ由ツテ影響ヲ受クルノハ大銀行ト特殊ノ信用機關ダケデアツテ、一般ノ流通額ニ變化ハ起ラナイコトガアリ得ル。」(前掲 Diehl 著 二二六頁)ト云ツテ、Ricardo ノ貨幣概念ヲ總括的ニ非難シテ居ルコトニハ、方法論上、内容上、共ニ贊成シ難イ。

加之、タトヒ Ricardo ノ貨幣概念ガ終始一貫變ラザル内容ヲ有ツテ居ツタトシテモ、彼ノ貨幣概念ヲ現代ノ貨幣理論ニ照ラシテ正否ヲ決スルコトハ不可デアル。最モ明カナル一例ヲ舉ゲレバ我々ハ Sir William Petty ノ貨幣論ヲ彼ノ Quantituncque ニ於テ讀ムコトガ出來ルガ、其處ニ Petty

ガ貨幣ナル概念ヲ持ツテ居ルコトハ明カデアリ、而シテ其ノ概念ガ今日ノ我々ガ有スルモノト異ナルコトモ明カデアル。此ノ場合、我々ノ貨幣概念ト異ナレルカラトテ、彼ノ其レヲ誤レリト判ズルコトハ出來ナイデアラウ。唯々彼ノ貨幣概念ヲ以テ當時ノ貨幣現象ヲ完全ニ解説シ得ザル時ニコソ彼ノ貨幣概念ハ不當ナリト云フコトガ出來ルノデアアル。Ricardo ノ場合モ同様デアツテ、彼ノ貨幣概念ガ第十九世紀初期ノ貨幣狀態ニ應ズルカ否カヲ檢シテ後初メテ其ノ當否ヲ決スベキデアラウ。

今、貨幣論上 Ricardo ノ文獻ヲ個々ニ通覽スルト、我々ハ彼ノ貨幣概念ガ漸次變化シ行クノヲ發見スル。先ヅ最初ノ新聞論說ニ在リテハ、問題ガ金ノ市價ト法價ト開キニ就テアルカラ、直接ニ貨幣概念ガ表現サレテ居ラナイガ、シカモ其ノ所論ヲ通シテ其レヲ探ルト、價值尺度トシテノ金即チ貨幣ト云フ考ヘガ流レテ居ル。金ノ市價ト法價トヲ一致セシメヤウト云フノハ此ノ價值尺度ノ確立ヲ目的トシテ居ルノデアアル。故ニ通貨トシテノ銀行券ノ職能ハ此ノ價值尺度ノ確立ヲ脅サザル範圍ニ於テノミ認ムベキモノデアアルト云フ思想ガ盛シニ現ハレテ居ル。次ニ「地金騰貴論」ニ於テハ貨幣概念ハ明カニ現ハレテ居ル。然ルニ此處ニ於テハ價值尺度ノ確立ト云フ思想ハ根本的ニ動搖シテ居ルノデアツテ、却ツテ絶對的價值尺度ハ存在セズト云フ思想ガ現ハレテ居ル。勿論、新聞論說以來ノ主張ニ顧ミテ彼ハ相對的價值尺度トシテノ金銀ヲ認メ之ヲ貨幣ト考ヘル。而シテ此ノ相對的價值尺度ヲシテ成ル可ク確實ナルモノトスル爲メ銀單本位制ヲ唱ヘタノデアアル。尙ホ「地金騰貴論」ニ於テ進歩シタノハ銀行券ノ職能ニ對スル尊重ノ程度デアアル。新聞論說ニ於テハ價值尺度ノ確立ガ主要問題テ、銀行券ハ其レニ從屬シテ居タノテアルガ、今ヤ確固タル價值尺度ヲ基礎トセル銀行券

ノ流通ハ最モ歡ブベキコトデアルト云フ思想ガ現ハレテ來タ。茲ニ流通要具トシテノ紙券即チ Currency ガ重要視セラルルニ至ツタ。斯クシテ價值尺度トシテノ貴金屬及ビ流通要具トシテ紙券、此ノ二ツガ彼ノ貨幣概念ニ於テ結び付ケラレタノデアル。此ノ思想カ「通貨議」ニ最モ美ハシク表ハサレタ。曰ク、「幣制ノ理想ハ各人ニ價值尺度ノ確固タルモノナルコトヲ保障シ同時ニ最モ費用少キ通貨ヲ用フルコトデアル。」ト。地金兌換制度・發券銀行國營案ノ如キハ此ノ理想ヲ實現スベキ實際的手段ニ他ナラス。而シテ此ノ貨幣概念ハ彼ノ「原論」ニ於テモ維持サレテ居ルモノデ、彼ガ最後ニ到達シタル貨幣概念デアルト考ヘラレル。Knapp ノ用語ヲ借リテ言ヘバ、Ricardo ハ結局 hylo-genisch ノ貨幣概念ト autogenisch ノ貨幣概念トノ間ニサ迷ツテ居ルノデアラウ。即チ流通要具ハ非要材性ノモノデモヨイガ、其ノ背後ニ實體價值ヲ有スル物ヲ必要トスルト考ヘテ居ルノデアル。斯カル場合ノ貨幣概念ハ、其ノ流通要具即チ currency ヲ捕捉スベキカ、將タ其ノ背後ノ實體價值即チ coin or bar ヲ捕捉スベキカ、將タ又其ノ兩者ノ關係ヲ捕捉スベキカヲ疑ハザルヲ得ナイ、Ricardo ニ於テハ、彼ガ地金兌換制度ヲ唱ヘタルコトカラ考ヘルト、斯カル關係ヲ有スル流通要具ガ、捕捉サレタノデアル。

斯クノ如キ貨幣概念ハ當時ノ英國貨幣狀態ニ顧ミテ正シキモノデアルコトハ直チニ領カレル。何トナレバ當時ノ貨幣狀態ハ流通要具ノ保全ヲ必要トシタカラデアル。Ricardo ハ初メ其レヲ金紙相場ノ開キヲ閉ヅルコトニ求メ、進ンデ銀行券發行ノ國營ニ及ンダノデアル。金屬主義ノ特色タル「價值測定要具」ナル表徴ヲ力説スルコトカラ素材ヲ離レタル「流通要具」ナル其レヲ強調スルニ

至ツタトコロニ彼ノ貨幣概念ノ進歩ヲ認メタルコトガ出來ル。而シテ此ノ進歩ハ決シテ Ricardo 一人ニ現ハレタルモノデナクテ、Petty, Locke, Hume, Smith, Thornton ト歷代ノ英國貨幣論者ノ間ニ徐々ニ發展シテ來タモノデアル。予ハ Ricardo ノ貨幣概念ノ進歩ヲ以テ云ハバ英國貨幣學說ノ發展ノ縮圖デアルト考ヘル。

——神戸・一九二・四二——